

## 会 議 録

会議の名称		令和6年度第3回吾妻学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和7年2月19日（水）開会9:30 閉会11:30		
開催場所		つくば市立吾妻中学校 2階パソコン教室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	国府田 友康（会長）、小峰 秀彦、木村 浩幸 安藤 亮輔、阿部 将史、岡田 幸恵、久松 尚 宮田 征門、井上 波彦、野本 高志、吉田 麻子 長屋 和宏、古田 雄一、小林 遼平 吾妻中学校：校長 菅谷 和美、教頭 諏訪 恵美 教務主任 中田 匡紀 副教務主任 横山 英子 吾妻小学校：校長 園田 浩美、教頭 野原 俊之 副教務主任 大塚 篤史		
	その他	塚本 忠行		
	事務局	教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏 教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開条例第5条第1号（個人情報）に該当する情報を取り扱うため		
議題		熟議「吾妻学園の児童生徒のよりよい幸せのために」		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開会			
	(1) 挨拶			
	(2) 本日の流れの確認			
	2 協議			
(1) 第2回議事録の確認				
(2) 学校評価から見えてきた課題				
(3) 授業参観				
(4) 熟議「吾妻学園の児童生徒のよりよい幸せのために」				
3 その他				
4 閉会				
<審議内容>				
1 開会				

国府田会長：

- ・開会宣言
- ・本会議の成立要件の確認。過半数の委員が参加。
- ・書記の選出。吾妻学園 木村委員 →拍手で承認

(1) 挨拶

国府田会長：

- ・コミュニティ・スクール協議会は、地域連携の点ですばらしい。
- ・グラフィックレコーディングを手掛けてくださる塚本さんの紹介。

菅谷学園長：

- ・3月11日には中学卒業式、18日には小学校の継志式が予定されている。
- ・本日は今年度最後のコミュニティ・スクール協議会である。
- ・授業参観では9年生が御案内する。

(2) 本日の流れ

諏訪教頭より、本日の流れについて説明があった。

## 2 協議

(1) 前回の議事録の確認

国府田会長より、前回議事録の確認があった。

(2) 学校評価から見えてきた課題

### 【吾妻小学校】

野原教頭：

- ・学校生活関連アンケートの紹介
  - ◇〈あ・づ・ま〉の3項目について、傾向と要因分析を説明した。
  - ・対話を重視した学びのデザイン、異学年交流の推進等により、児童の支持的な風土が醸成された。
  - ・ルールメイキングは（教員、保護者と比較し）児童の結果は下回っている。児童ができるのにまだ力を発揮しきれていないことが伺える。6年生も数値は高い等、児童の参画意識が高まっている。
- ・さわやか活動（全校遊び）の動画視聴
- ・ルールメイキング関東大会出場時のプレゼン動画視聴

園田校長：

- ・「ランドデザイン」を振り返り、児童の想定を超えた創造的な実践紹介と次年度の取組み説明（吾妻総合研究所を立ち上げ、異学年交流で、個々の強味を生かした探究活動へ）
  - ◇学校評価検討委員会が出た3つの柱「学びの要求」「異学年交流」「ルールメイキング」についての説明
- ・地域と連携した取組みの紹介
  - ◇3つのプロジェクト制（吾妻まつり、ホテル池、防災活動）により教職員の働き方改革につながった。
  - ◇アンケートで、「地域の役に立ちたい」と答えた児童が多く、コミュニティ・スクールの効果と考える。

## 【吾妻中学校】

諏訪教頭：

- ・保護者アンケートにおける保護者と生徒の評価について紹介。
  - ◇〈保護者生徒ともに高い〉〈保護者生徒ともに低い〉〈評価が分かれた項目〉などについて、それぞれの傾向と要因分析を説明した。
  - ◇〈地域との連携〉ほかの項目に比べて評価が低いが、地域の人を利用した授業や、地域に支えられた成長については90%を超えた。
- ・学校からの連絡や生徒の様子についてはスクリレやHPを活用する。
- ・人間関係作りに成果がある「ピアサポート活動」を継続する。
- ・好評な地域連携の企画「ようこそ先輩」は授業参観日に実施したい。

菅谷校長：

- ・「探究的な学び」大学教授による講習について開催の主旨と生徒の様子について説明した。
- ・「主体的な活動」生徒の主体的な活動として、体育祭、紫苑祭、委員会活動などについて説明した。
- ・「ピアサポート活動」仲間で助け合う、支え合う活動としての主旨および9年生と6年生の交流の様子について説明した。

### (3) 授業参観

- ・委員全員が6グループに分かれ、9年生の生徒の案内で7年生と8年生の各学級の授業を参観した。

### (4) 熟議 「吾妻学園の児童生徒のよりよい幸せのために」

諏訪教頭：

学校評価アンケートによると、生徒は意欲的・主体的に活動しているが、一方で自己評価が低い。これを改善する方策を話し合いたい。

諏訪教頭が提示したテーマを受けて、各班で9年生を交えた熟議を行い、それぞれの班に参加した生徒が発表した。発表の要旨は以下の通り。

- 1班：自己評価では自分の悪いところを見て評価しがち。対策は、知識をつけることによって幅広い視野でプラス面もマイナス面も見ることができるようになるなど、より客観的な判断力を身につけること。
- 2班：自己評価をする際は勉強だけが目立ってしまう。環境面の対策は、学校や地域で目立てる場所を与えること。マインド面の対策は、「塞翁が馬」の精神を持つこと。失敗をしてもそれを生かしていく精神力を身につけること。
- 3班：先を見すぎて目の前の目的を達成しても褒められないことがない。吾妻中は周囲がハイレベルなので自信がなくなる。対策は、個々が目立てる場所作り。ポジティブになれるよう、明るい言葉をかけること。
- 4班：吾妻中はまわりが優秀で勉強できる人が多い。対策は、学力以外の指標を持つこと。例えば、文化祭で個人企画を復活させ、失敗してもいいから披露する場を作ること。地域や学校でコミュニケーションをとれる場を作ること。
- 5班：勉強面では成績の順位が発表されるのに、それ以外は評価を受ける機

会がない。対策として、アンケートの結果を材料に生徒で話し合いたい。もっと気楽に考えようと言いたい。勉強の成績が仕事の成果に直結するとは限らないから。

6班：他班と異なる対策案として、実行委員会の定員の縛りを緩やかにすることを提案する。実行委員に立候補した人をできるだけ多く採用し、できるだけ落選させないよう配慮するのがよいと思う。

7班：まわりが優秀で成績の順位が明確だが、自分の良さに気づこう。学校ではホームルームでの発表や文化祭の個人企画など。地域では吾妻まつりへの参加など。保護者は生徒を褒め、気づかせる努力をしよう。

### 3 その他

・次年度のコミュニティ・スクール協議会の予定について

### 4 閉会

事務局：

コミュニティ・スクールの講習会で「恩送り」について紹介があった。子どもどころ地域の方に関わって嬉しかった経験がある人は、30～40代になって地域の子に恩返しをすることが多いというデータがある。吾妻で試行しているコミュニティ・スクール協議会が「恩送り」の機会となるよう願う。

令和6年度第3回吾妻学園コミュニティ・スクール 協議会

日時：令和7年 2月19日（水）

9：30～

場所：吾妻中学校 パソコン室

次 第

1 開 会

- (1) 挨拶
- (2) 本日の流れの確認

2 協 議

- (1) 第2回議事録の確認
- (2) 学校評価から見えてきた課題
- (3) 授業参観
- (4) 熟議「吾妻学園の児童生徒のよりよい幸せのために」

3 その他

4 閉 会

## 会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回吾妻学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和6年11月18日（月）開会9:45 閉会11:45		
開催場所		つくば市立吾妻小学校 家庭科室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	国府田 友康（会長）、木塚 朝博（副会長） 木村 浩幸、阿部 将史、上野 真美、久松 尚 宮田 征門、井上 波彦、野本 高志、長屋 和宏、 古田 雄一、小林 遼平、吉田 麻子 吾妻中学校：校長 菅谷 和美、教頭 諏訪 恵美 横山 英子 吾妻小学校：校長 園田 浩美、教頭 川島 真由美 教頭 野原 俊之、教務主任 秋元 良一 副教務主任 大塚 篤史		
	その他	塚本 忠行、澤田 祐輝		
	事務局	教育局生涯学習推進課 参事：山口 健次 教育局生涯学習推進課 係長：飯島 遊 教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏 教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		熟議「幸せのバトンリレー！委員会活動を紹介し、CSの方と意見交換しよう」		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 前回の議事の確認 4 協議 (1) 教育活動の紹介 (2) 熟議「幸せのバトンリレー！委員会活動を紹介し、CSの方と意見交換しよう」 5 その他 ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について 6 閉会			

<審議内容>

1 開会

国府田会長：

ただ今から、令和6年度 第2回 吾妻学園コミュニティ・スクール協議会を開会します。はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。吾妻学園 上野様 をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

→上野委員 承認

2 挨拶

国府田会長：

- ・コミュニティ・スクール協議会で皆様方から提案された貴重な御意見を取り入れ、吾妻学園がさらにパワーアップすることを信じている。
- ・グラフィックレコーディングを手掛けてくださる塚本さんの紹介。

菅谷学園長：

- ・第1回コミュニティ・スクール協議会から6か月経過し、児童生徒は様々な行事等を経験することで順調に成長している。
- ・各行事（運動会、体育祭、合唱祭）を実施した。
- ・子どもたちが学校運営に参画できるように教育活動を進めている。
- ・子どもたちは地域の方々と連携をすることで地域貢献の意欲が高まることにつながる。

3 前回の議事録の確認

国府田会長：

- ・委員の自己紹介から会長、副会長選出
- ・学校ランドデザイン説明と教育活動紹介。
- ・熟議「児童生徒が参画した学校運営（メイキング）に向けて」

4 協議

(1) 教育活動の紹介

・吾妻小学校

- ・「あ・づ・ま」のキャッチフレーズに沿った活動報告（あ・・・広げようあかるい笑顔、あったかい 心／づ・・・まなびつづけようパズル思考で／ま・・・前に進もう幸せの花メイキング）
- ・コミュニティ・ステップの取組（ホテル池、吾妻まつり、ランタンアートへの参加、防災キャンプ）
- ・G Tや地域の方を招いた社会のつながりを深める授業の実施（農家の方、読み聞かせボランティア、キャリア教育）
- ・子どものがんばりルールメイキング（フレンドシップ校 二の宮小、松

代小との交流、プレゼンテーションコンテストスキルの向上)

- ・吾妻中学校
  - ・各行事（体育祭、合唱祭、吹奏楽部の大会出場）を通じた地域連携の強化。
  - ・吾妻祭りでは、生徒が企画運営に参加した。生徒にとって学びになった。
  - ・プレゼンテーションフォーラム（県の教育長賞を受賞）
  - ・国研の贄田先生による英語科の授業のブラッシュアップ（教職員研修の間、保護者見守りボランティアにより児童の見守りを実施）
  - ・ピアサポート活動やキャリア教育にも積極的に取り組んでいる。

(2) 熟議「幸せのバトンリレー！委員会活動を紹介し、CSの方と意見交換しよう」

- ・小学生 児童による委員会活動の紹介。  
児童とCS委員との意見交換。
- ・中学生 生徒による委員会活動の紹介。（オンライン）

1 班：ルール作りについてプロセスを踏んで行っているところが素晴らしい。子どもたち自身で考えて、一緒に作り上げていこうとする姿勢が地域との交流という観点では大切。

2 班：地域やほかの委員会と連携（コラボ）することで活動の幅を広げられる。

3 班：フレンドシップ校との交流で得た気づきを活動活かすこと。体力向上活動における意識改革の必要性（日常生活に運動を取り入れるのが良い）

4 班：委員会活動の体験（委員会活動への理解を深める）、地域と児童の活動時間のすり合わせが課題。

5 班：委員会活動における意義の議論、地域との連携強化、専門家からの助言などが必要。防災委員会の設置。

6 班：委員会のアンケートをもとにテーマを選ぶなど、大人の社会でも通用する学びができています。産業医や飲食店の方など地域の大人から話を聞くと参考になりそう。

7 班：委員会の活動1回45分/年12回程度の中で、より良い活動をするため他校や地域との意見交換の場や大人に向けて発信する場があれば良い。（保護者も関心を持てるように）  
今後の取組として、地域との交流や委員会活動を広げるため、意見交換の機会を増やし、活動の質を向上させることが重要。

5 その他

- ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について  
第3回は吾妻中学校で令和7年2月19日（水）9時30分からの予定。

6 閉会



コミュニティ・スクール協議会(推進会議)に関するアンケート(学園名: ) どちらかに○(地域住民・教職員)

項目	あてはまる部分にチェック(○)を入れてください	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	あてはまらない	判断できない
1	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員(推進会議の構成員)による議論を行う					
2	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある					
3	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある					
4	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある					
5	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある					
6	協議会(推進会議)内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある					
7	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている					
8	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある					
9	協議会(推進会議)で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることもある					
10	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある					
11	協議会(推進会議)で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある					
12	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている					
13	議論の結果、各主体(学校・保護者・地域の大人等)が実行すべきこと・役割分担が明確になっている					
14	学校の問題や悩みは、協議会委員(推進会議の構成員)の中で共有されている					
15	協議会(推進会議)での協議内容について、十分な情報発信が行われている					
16	当事者意識をもち、学校運営に参画したと感ずることができる					
17	協議会(推進会議)への参加回数をご記入ください					回
18	その他 ご意見があればご自由に記入してください(裏面もご使用ください)					